

令和7年度第3回刈谷市総合教育会議 議事録

1 日 時

令和8年1月19日（月）午後4時00分～午後5時00時

2 場 所

刈谷市役所 701会議室

3 議 題

- (1) 第3次刈谷市教育大綱の最終案について
- (2) 意見交換 テーマ「今後の学校教育に求めること」

4 出 席 者

市 長	稲垣 武
教育委員会 教育長	佐野 吉則
教育委員会 委員（教育長職務代理者）	鶴田 英孝
教育委員会 委員	浅井 優
教育委員会 委員	小川 耕示
教育委員会 委員	深澤 由記子

5 会議構成員以外の出席者及び事務局

教育部長	竹谷 憲人
教育総務課長	近藤 真
教育総務課 課長補佐兼総務係長	溝口 香織
学校教育課長	田中 仁
学校教育課 指導主事	近藤 佳奈子
学校教育課 指導主事	佐藤 裕一
生涯学習課長	山田 芳久
スポーツ振興監兼スポーツ課長	坂東 知道
アジア・アジアパラ競技大会推進室長	杉原 秀克
企画財政部長	岡部 直樹
企画調整監兼企画政策課長	平野 元章
企画政策課 課長補佐	小原 崇照
企画政策課 経営管理係長	池田 陽一郎
企画政策課 主事（書記）	和田 芳明

6 傍 聴 人

なし

1 市長あいさつ

皆様、こんにちは。市長の稲垣でございます。

本日は大変ご多忙の中、定例教育委員会に引き続きという形となりますが、今年度第3回の総合教育会議にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

国の動向として、解散総選挙が迫っているという報道もあります。日程次第では、投票所の入場券が期日前投票開始までにご家庭に届くか危うい状況にありますが、入場券が無くても住所、氏名、生年月日等で本人確認できれば期日前投票ができますので、市民の皆様安心して投票いただけるよう、こちらも粛々と準備を進めてまいります。

今年度は市制施行75周年ということで、8月には刈谷わんさか祭りでのドローンショー、11月にはKARIYA 大演会、75周年記念パレード、NHKのど自慢を実施しました。とりわけ75周年記念パレードにおいてはキッズダンサー、マーチングバンドで子どもたちや先生方にもご協力いただきました。キッズダンサーは人数が限られていたため、落選した子どもたちにフラッグキッズとして行進してもらい、多くの方に参加していただくことになりました。今後についてですが、2月1日にはサッカーフェスティバルということで元日本代表、元なでしこジャパンの方々をお招きして、子どもたちに指導・講演していただきます。その後、3月8日には第九交響曲演奏会が開催され、公募で選ばれた250名の方に演奏していただきます。周年記念事業としてはこれらが残りの大きなイベントになるのですが、多くの方に75周年をお祝いいただいたということで、改めて感謝を申し上げます。

今日の議題は第3次刈谷市教育大綱の最終案について、また、今後の学校教育に求めることについての意見交換になりますので、どうぞよろしく願いいたします。

2 議題

(1) 第3次刈谷市教育大綱の最終案について

- ・パブリックコメントの結果について（資料1）
 - ・第3次刈谷市教育大綱の最終案について（資料2）
- ＜教育総務課長から資料1、2について説明＞

市長

事務局から説明がありました内容について、ご意見、ご質問はございませんか。

【意見、質問なし】

市長

それでは、この内容にて教育大綱を策定してまいりますので、よろしくお願いいたします。

(2) 意見交換 テーマ「今後の学校教育に求めること」

市長

続きまして、意見交換ということですが、テーマを「今後の学校教育に求めること」とさせていただきます。皆様から忌憚のないご意見を伺わせていただければと考えておりますので、よろしくお願いいたします。まずは鶴田委員お願いいたします。

鶴田委員

本日は「今後の学校教育に求めること」という、極めて重要かつ本質的なテーマについて、皆様と意見を交わす機会をいただき、感謝申し上げます。本来は教育委員としての専門性と、市民代表としての視点でお話すべきかとも思いますが、今回はあくまで個人的な意見を申し上げさせていただきます。現在、社会は「予測困難な時代」と言われるように、急速な変化の渦中にあります。「少子高齢化」、「生成A Iの台頭」、そして「グローバル化の進展から一転した反グローバル化」といった社会構造の変化は、これまでの教育の「正解」を大きく揺るがしているように感じています。かつてのように、知識を蓄積し、正解を早く導き出すというだけの力では、子どもたちが将来、幸せに生き抜くことは難しくなっています。こうした現状を踏まえ、私が今後の学校教育に求めたいことは、大きく分けて3点あります。

1点目は、子どもたちの「主体者意識」です。すなわち「自ら考え、判断し、行動する力」の育成です。G I G Aスクール構想により、本市の学校においては早期に1人1台端末の環境が整いました。しかし、ハードウェアが整っただけでは教育は変わりません。そのツールを使って何をするかが重要だと考えています。これからの授業には、先生が教壇から知識を授けるというスタイルから、子どもたちが自ら問いを立て、他者と協働しながら解決策を探究するスタイルへの転換が求められます。A Iが答えを出してくれる時代だからこそ、「なぜそうなるのか」、「自分はどう思うのか」という問いを立てる力が不可欠です。失敗を恐れずに試行錯誤できる環境、そして「自分たちの学びは自分たちで創るんだ」という主体性を育むことができる教育課程の編成を学校現場に強く期待します。

2点目は、全ての子どもたちの「Well-Being（幸福感）」を保障する包括的な学校づくりが必要だと思っています。不登校児童生徒数の増加は全国的な課題であり、本市においても喫緊の課題ではないかと考えています。学校に行けない、あるいは行かない選択をしている子どもたちの背景には多様な要因があります。この言い方が正しいかわかりませんが、今後の学校教育に求められるのは、「画一的な枠に子どもを合わせる」ことではなく、「多様な子どもの在り方を学校が受け入れる」ことへの意識改革かもしれません。発達特性、家庭環境、国籍など、異なる背景を持つ子どもたちが、互いの違いを認め合い、安心して過ごせる「心理的安全性」の高い教室環境が必要です。誰一人取り残すことなく、どの子にとっても「明日も行きたい」と思わせる学校、あるいは学校以外にも学びの選択肢が柔軟に用意されている教育体制の構築を一層求めたいと思います。子どもたちが「自分は大切にされている」と感じられることが全ての学び

の土台となるからです。

3点目は、これらを実現するための「教員の働き方改革」と「地域連携」です。子どもたちの主体性を育み、一人ひとりに寄り添う教育を実現するためには、最前線に立つ先生方の心と時間にゆとりがなければなりません。先生方が疲弊しては、豊かな教育は生まれません。DXの推進による業務効率化はもちろんのこと、学校だけで全てを抱え込まない大きな仕組みづくりが不可欠です。そこで重要になるのが「地域との連携」です。地域の人材や企業、NPOなど、外部のリソースを積極的に学校教育に取り入れ、社会全体で子どもを育てる「チーム学校」という様な体制をより一層強化すべきだと考えています。地域社会にとって子どもたちの元気な姿は希望です。学校が地域に開かれ、地域と共に歩むことは持続可能な教育環境を作る上で欠かせない要素であると思います。教育の目的は子どもたちの「未来の幸せ」と「社会の持続的な発展」にあります。本市の子どもたちが変化の激しい時代にあっても、自らの足で立ち、他者と手を取り合いながら、たくましく人生を切り拓いていけるように様々な声に耳を傾けつつ、教育委員として、実効性のある施策を推進していきたいと考えておりますので、引き続き、市長ならびに市当局の皆様にご協力いただきたいと思います。

市長

ありがとうございました。それでは浅井委員お願いいたします。

浅井委員

学校教育に求めることについて考えを巡らせたのですが、大前提として、学校は子どもたちが「世の中を生き抜く力を養う場」の一つであり、私個人としては子どもたちには『自分の人生、まあこんなもんだ』と笑いながら天寿を全うして欲しいと思っています。『まあこんなもんだ』という幸せは誰かが決めるものではなく、個々人が個々人の価値基準によって決めるものです。「私は私自身が幸せだと思っている事が嬉しい。そして、あなた自身が幸せだと思っている事も嬉しい」という自他共にそれぞれが感じる幸福であったり、価値基準に対して、皆が寛容で許容し合える事が重要な要素の一つではないかと思っています。学校教育においても、相手の尊厳や命を傷つける事は絶対にダメという前提の下、「わたしはわたしでいい」、「あなたはあなたでいい」という自他の考え方や在り方、存在そのものを尊重し合える人間に育つ教育をしていただけたらありがたいなと思います。今まで掲げてきた「自己肯定感」、「自己有用感」と同じ事かもしれませんが、行きつくところは個々人が誰と比較するでもなく、個々人の価値基準で「まあまあ幸せだな」と生きていって欲しいと願うばかりです。これまでの「自己肯定感」、「自己有用感」を醸成させる取組がどれだけ成果を上げているのか、都度検証してブラッシュアップを続けていただきたいと思います。前回の総合教育会議においてもお話しましたが、子どもたちへのアンケートで「あなたはどんな人になりたいですか」の問いに対して、「たくさんの友だちや仲間がいる人」が最も回答数が多かったのですが、その陰で「ぼっちになる怖さ」から空気を読むことに注力して自分を素直に出せず

に疲弊していないだろうか、または、昔から連綿と続いておりますが、他者と少し異なる言動をする子へのイジリなのかイジメなのか、曖昧な境界線上で繰り広げられるやりとりの中で、そのやりとりを受ける側の尊厳は守られているのか等、そこに引き続き向き合っていただき、「わたしはわたしでいい」、「あなたはあなたでいい」と自他の尊厳をリスペクトし合える人を育てられるような教育をして欲しいと願っています。

市長

ありがとうございました。それでは小川委員お願いいたします。

小川委員

昨今、社会全体でハラスメントについて取り上げられることが多いと感じています。学校のいじめもハラスメントでしょうし、モンスターペアレントというのは一種のカスタマーハラスメントと言えなくもないでしょうし、行政の中でも他の市町村でハラスメントが話題になっていますが、なぜこんなことが起こってしまうのかと思います。私が生きてきた昭和ではハラスメントという言葉が意識されなかった時代でもありますが、これからの時代を生きていくピュアな子どもたちにハラスメントをどう教育していくか、どう向き合っていくべきかについて考えさせられます。ハラスメントを無くすために監視社会にしていくのか、教育で何とかしていくのかの二択だとしたら、教育をすることでハラスメントを無くしていくことができれば良いのかなと思います。私は教育についてまだまだ詳しくないものですから、教育委員の皆様と学校訪問させていただきながら、道徳+ハラスメント防止への取組について学ばせていただければと思います。

市長

ありがとうございました。それでは深澤委員お願いいたします。

深澤委員

子どもたちには成長して振り返った時に楽しかったことも辛かったことも「良かったな」と思える学校生活を送ってほしいと考えています。学校は小さな社会なので、時には自分の思い通りにいかなかったり、不満を残したまま終わったり、理不尽なことを経験する場でもあります。必ずしも子ども一人ひとりにとって楽しいことばかりではないとは思いますが、学童期にはマイナス面での経験が社会を生き抜くための鍵になることもありますので、そういった感情を抱くこと自体は悪いものではないと思っています。大切なことは、子どもたちがそういう状況に陥ったときに、寄り添ってくれたり、気持ちを受け止めてくれたと感ずることができる機会をもっと増やすことだと思っています。現在も学校の先生方には一人ひとりに真摯に向き合っていていただきありがとうございますし、感謝をしていますが、欲を出して申し上げますと、子ども自身が何かの出来事に対して満足感や納得感というものを自覚できる回数を増やすことを今後の学校教育に求めたいと思います。糧となる経験は積みば積むほど人生が豊かになりますし、自分と相手の両方

を大切に思いやる気持ちを持てるような、強くてしなやかな子どもたちが増えていくことを願っています。

市長

ありがとうございました。それでは佐野教育長お願いいたします。

佐野教育長

10月から教育長を拝命し、市内全ての学校を訪問できておりませんが、前任の金原先生ともよくお話をさせていただきまして、現在把握している今の学校の状況を踏まえて、4点ほどお話をさせていただきます。

1点目は授業において問題解決学習を大綱にも載せさせていただきましたが、これについて従来通り、力を入れていきたいと考えております。子どもたちの「自ら学ぶ力」を育てたいということで問題解決学習に取り組んできました。学校では「分かった」、「できた」が実感できる授業づくりに力を入れており、子どもたちの学習意欲を高めることにつながっています。この積み重ねや繰り返しが「主体的に学びに向かう」ことにつながっていくと思います。子どもたちが、変化の激しい時代の中で、問題や課題に出会い、自分の体験や情報機器を活用しながら積極的に解決していくことは、大綱の育てたい姿の「未来を創造する」ことにつながっていくものと考えております。

2点目は今年度から市内全ての小中学校・特別支援学校において、取り組んでいる「ありがとうがあふれる学校づくり」についてです。この取組は第2次刈谷市教育大綱が策定された令和3年頃から本格的に行っております。学校では、いろいろな機会をとらえて、子どもたちが互いのよさに気づき、互いに伝え合っています。この取組の成果として、「子どもたちの笑顔、喜ぶ姿が多く見ることができるようになりました」と、学校からの声をもらっています。さらには、地域の方々の交流の中で学校外の大人から子どもたちの活動をほめていただく経験を通じて、子どもたちの自己肯定感・自己有用感を育てることにつながっていると実感しています。これが大綱の育てたい子ども像「共に生き」につながっていると、強く思っています。

3点目は子ども主体の活動に力を入れていることです。平成23年度に生徒主体のいじめ防止活動が始まってから14年が経ち、市内中学校で始まった取組が、生徒会サミット等で紹介され、市内中学校だけでなく、小学校へも広がりを見せております。また、この様な子ども主体の活動は学校の行事や各種委員会活動にも広がっており、校則見直しプロジェクトが始まったり、自然災害発生時の義援金募集活動等も行われるなど、自ら、主体的に活動に取り組む子どもたちの頼もしい姿を見ることができます。このように、子どもたちが自ら考え、自ら動く姿をみますと、大綱の育てたい子ども像の「共に生きること」と「未来を創造すること」の、原動力になっていくものと考えています。

4点目は礎である「地域の力」を大切にしたいということです。教育大綱の中に「元気・笑顔・希望のまち」とは、愛情、優しさ、思いやりにあふれた人が住み、学校、家

庭、地域が連携して子どもたちを見守ることのできるまちとあります。

本市は、従来より各小中学校で、PTAやボランティア活動が盛んな上に、地域学校協働活動が推進され、授業の補助、環境の整備、子どもとの交流、地域活動への参加と受入れなど、年々大きな成果が出ております。これもひとえに、学校や家庭、地域の連携が太いことを示しています。感謝とともに、今後もこの取組を進めていながら、地域や地元の企業からも認められるような、心豊かな子どもたちを育てていきたいと考えています。

以上、4点について、お話をさせていただきましたが、第2次教育大綱の成果が表れてきておりますので、来年度からの第3次教育大綱でも、方向性は大きくは変えずに引き続き取り組んでまいりたいと考えております。来年度は「笑顔と感謝」を合言葉に各学校の教育活動に取り組んでもらいたいと考えております。ありがとうございますあふれる学校づくりがさらに一歩前進した形となります。もう一つは、刈谷市で育った良さを実感してもらえる教育活動に取り組んでいきたいと考えております。子どもたちや保護者、教職員にとっては当たり前になっている良い取組を実感してもらうことで、ふるさと刈谷の思いを強くしてくれるのではと期待しております。

市長

先程、鶴田委員からもお話がありましたが、子どもたちには自分で考える力を身に付けてほしい。自分で考えられる環境を家庭と学校でどのように作ってあげられるかが大切になってくると思います。やはり自分で考え抜いたものは最後までやりきろうとしますし、自分で責任を取ろうとする。たとえ失敗したとしても責任を取って落ち込み続けるのではなくて、浅井委員からもありましたように「ああこんなもんか」と思えるようなおおらかさも必要になってくるのだろうと思います。人間それぞれですから、いろんな能力がありますので、学習能力だけではありません。多様性という言い方がありますが、それぞれが持っている個性が違うということを学校の中で教えてあげられる環境があれば良いのかなと思います。一人ひとりが命をもらって生きていますから、自分で考える能力を身に付けること、自分以外を認めるということが重要だと思います。これを学校教育に落とし込めるかという難しい側面もあるかと思いますが、深澤委員のお話のように、つかず離れず上手く寄り添っていく先生方の努力に引き続き期待したいと考えております。本日、皆様からいただいた意見は今後の教育行政に活かしてまいりたいと思います。

3 その他

3月市民文教委員会で報告

4月にHPなどで公表